**【宿毛市　意見交換会】**

**宿毛市市街地における河川・海岸堤防の地震津波対策意見交換会　議事メモ**

日　時：平成28年3月17日(木)　19：00～

会　場：宿毛市文教センター

出席者：宿毛市民　68名

■県宿毛事務所より説明（別添資料）

【資料１】宿毛市市街地における河川・海岸堤防の地震津波対策

【資料２】松田川堤防の地震・津波対策

【資料３】海岸堤防の地震・津波対策

■質疑内容

Ｑ1 ：大深浦と西町の遊水池の樋門について、被災時の扱いはどうなりますか。

県 ：樋門についても地震対策を行います。遊水池については市の管理なので、話し合いながら、検討していきたいと思います。

Ｑ2 ：クリーンセンター辺りの支持層の深さはどのくらいですか。

県 ：２０ｍです。（確認後に回答）

Ｑ3 ：片島の防波堤は高さを2.5ｍにし、ゲートをしめるとのことで驚いています。

　　最大級の地震が来た時は堤防が壊れるのに、それを言わず、説明もわかりにくいです。

　　前回の説明会では、堤防が壊れるとありましたが今回の資料では壊れないとなっています。

　　　内閣府の資料では、最大級の地震で堤防は壊れないとは記載されていないが、今日の資料では壊れないとなっています。また、がれきの設計も前回は検討していないとのことだったと思います。

県 ：宝永クラスの地震で設計していますが、最大級の地震についての安全性についても確認します。例えば、新田地区では、下に17ｃｍ、海側に10ｃｍ傾きます。他の地区でも、同様にチェックをします。最大クラスでは、少し傾くが粘り強く対応し、倒壊はしません。

　　船舶の往来が多い東北の事例でも、漂流物によって、直接堤防が壊れた事例はないと聞いています。万が一、漂流物により堤防が損壊しても全体としての機能は損なわれないと考えています。

Ｑ4 ：最大クラスの地震で倒壊しないということは無理ではないですか。そのような話は聞いたことがありません。

県 ：粘り強さを考慮しています。最大級でビクともしないという設計でなく、最大クラスにも粘り強く耐える事が出来るというのが設計の考え方です。

Ｑ5 ：過去の説明会では消火活動の問題があるとのことでしたが、きちんと解決されないまま話が進んでいるのではないでしょうか。

県　：消防団の方々とは、陸こうの操作で普段からお話させてもらっています。火事の時に海水をくみ上げることもお聞きしてます。どのような工夫をできるか検討しています。叩き台が出来れば、消防団の方々とまたお話をすることとしています。

Ｑ6 ：河川堤防において、現在部分的に嵩上げをしていますが、残りも嵩上げは可能ですか。

　　　　また、以前聞いた説明会では河川堤防は片側にしか矢板をうたないものでしたが、今回は両側にうつことにしています。どうしてですか。

県 　:嵩上げが出来ていない所もあわせて、この事業の中で嵩上げをしていくように考えています。

　　　　矢板については、調査結果により変更があり、両側に矢板をうつこととしました。

Ｑ7　：津波を防ぐには4～5ｍの嵩上げが必要と言っていましたが、津波より長期浸水がメインとなっています。長期浸水対策がメインとなったのはいつからですか。また、それはなぜですか。

県　：Ｌ１津波の高さで整備すれば、4～５ｍの嵩上げが必要となりますが、地域の実情を考えれば4～５ｍの嵩上げで地元の理解を得るのは困難と思っていますので、長期浸水を防ぐ高さでの整備を事前に地区長などと相談し、提案しています。

Ｑ8 ：長期浸水を防ぐ高さでの整備としたのは県の判断ですか。

　　　　地区で高さを高くすることになれば、高くすることはできますか。

県　：県は基本的に人命を守るためにＬ１津波水位まで、嵩上げし整備を行いたいと考えています。ただし、生業や生活環境への影響もあり、地域の意見も聞きながら決定することとしています。地区でＬ１高さの整備でまとまれば、Ｌ１高さでの整備ができます。

Ｑ9 ：長期浸水の復興のイメージをどのように考えていますか。

県　：堤防の耐震補強を行わなければ、宿毛市街地は亡所になります。堤防の耐震補強を行うことで、津波の侵入量を軽減でき、早期の復旧につながる震災後の街づくりは、市が中心となって行うことになりますが、県としても意見を述べていきたいと考えています。

Ｑ10：最大級の地震がきたら、被災もあまりにも大きいため復興の費用対効果を考えても意味がないのではないですか。

県　：効果については、現在、試算していません。整備の計画、詳細な設計を行えばお知らせできます。

Ｑ11：100億の事業となると宿毛市民１世帯当たり10万程度は負担することとなります。宿毛市の他の対策にも重要なものがあり、そちらにお金をまわすべきではないでしょうか。

　　　また、市議会の中で、来年度この事業に関して、宿毛市より7700万の支払が必要なことを知りました。まだ決まっていないことも多い中で４月から予算をつけるのは早いのではないですか。来年度に予算をつけるのは待ってもらえないですか。

県　：海岸堤防については、来年度は詳細設計の段階なので、工事がすぐに始まるわけではありません。設計についても、一部宿毛市に負担をしてもらうことになります。

意見：実際に東北に行ったところ、復興に時間がかかることが分かりました。まずは自分の命を守ることが急務であり、せっかく国も県も市も頑張ってくれるなら、堤防の補強をぜひ行ってもらいたいです。

意見：100億かかってでも一人でも多くの命が助かるのなら、良いと思います。命をお金にかえることはできないので、一人でも多くの命が助かるのであれば、ぜひやってもらいたいです。

Ｑ12：堤防か人の命かどちらが優先か良くわからないです。

　　　地元の意見で堤防の高さを変えるのはおかしいのではないですか。景観のためとかで高さを簡単にかえてほしくないです。

県　：なんとしても、命を守るのが最優先です。堤防補強は、多くの命を守るための手段です。基本的には、高くするのが一番良いと考えていますが、堤防のすぐ背後の方々の意見も考えないといけないと思います。

Ｑ13：長期浸水の排水方法も考えるべきでないですか。

県　：今後、国の持っている排水ポンプの利用や、市が管理するポンプ場の耐震化等を市と連携し検討していきます。（検討委員会で行っている）

Ｑ14：コンクリートの寿命はどの程度考えていますか。また橋についてはどう考えますか。嵩上げはどのようにしますか。矢板は岩盤まで届きますか。

県　：コンクリートや橋については、耐用年数は50年で、現在老朽化した施設については、長寿命化計画を策定し、延命化に努めています。嵩上げはコンクリートで堤体を広げる方法や、堤体にＨ鋼等を打ち込む方法等もあり、今後の設計の中で検討していきます。

　　　矢板は岩盤までは届いていません。支持層や摩擦で安定させる方法もありますが、今回は矢板を二重にする形で検討しています。そのため、液状化層より４～５ｍ程度深くすることとしています。

　　　海岸堤防については、工法が決まり次第お知らせします。

Ｑ15:池島地区などやその他の地区で海沿いの民家もありますが、対策はどうしますか。

県　：必要なところについては他の事業で、今後、地震津波対策を考えていきます。

Ｑ16：宿毛市は宝永クラスでは全壊すると思います。対策として、高台移転も考えていますか。街の復興はどのように考えていますか。

県　：県としては、海岸堤防の地震津波対策を中心に検討していますが、高台移転は市役所が中心となって進めることなので、県としての意見をのべていきたいと考えています。

市　：復興については、現在検討しているところです。

Ｑ17：説明会はこれで最後となりますか。

県　：これで最後と言うわけではないですが、説明会のやりかたについては検討したいです。

　　　今回のような全体を対象としたものが良いか。それとも地区別に行うのが良いか。

　　　意見をお聞きしたいです。

意見：特定の地域だけでなく、全体でもしてもらいたいです。

　　　他の地区の意見も聞けて良かったと思います。

地区により、説明が欲しい所については説明会を開くようにして、必要のない所は説明会をしなくても良いのではないでしょうか。

県　：では、地区から説明会の要望がある地区は説明会を行い、その後、全体の会で報告するということで良いですか。

意見：それで良いです。